

My Anthology

花き装飾コース

1. はじめに

私は農業高校で園芸について学び花に興味を持った。花について深く学びたいと思い園芸アカデミーに入学した。園芸アカデミーに入り、1年生では基本的な技術をたくさん学ぶことができた。2年生ではフラワー装飾技能士2級に受験し、同時に技能五輪全国大会にエントリーした。練習が始まり、検定の本番が近づくにつれより技能五輪に挑戦したいという思いが強くなっていった。そして見事、技能五輪全国大会の岐阜県代表に選ばれることができ課題の4作品に取り組んだ。

また、2年生の初めに入学式の装花で壺の生けこみをした。事前に何度も練習をしたが、思い通りに制作できず、涙を流すほど悔しい思いをした。そのリベンジを踏まえて様々な生けこみに挑戦した。

それらの作品をギリシャ語で花を意味する「anthos」と集めることを意味する「logia」との複合語で花を集めるという意味もある「Anthology」として作品をまとめた。

2. 制作作品

- (1) 「Light buoyant」
- (2) 「二人の記念日」
- (3) 「冬景色」
- (4) 「トムテたちの花あそび」

3. まとめ

技能五輪全国大会に出場したことで、授業では経験したことのなかった技術をたくさん学ぶことができた。技能五輪全国大会に向けて本やインターネットでたくさんの作品を見て、どのように作られているか実際にリメイクしながら調査した。見た目は簡単そうでも作ってみると難しいもの、反対に見た目は難しそうでも作ってみると簡単に制作できるものもあった。見るだけでなく実際に自分で制作して身につきテクニックを増やすことができると学べた。また、検定のように事前に課題が出されそれに向けて練習することだけでなく、サプライズ競技という直前に課題が出されることを経験したことで、技術面はもちろん精神面でも成長することができとてもよい経験となった。

生けこみでは使用する花材を決め、市場での仕入れも行った。市場で使用したい花がない場合は市場にある花で瞬時に判断して似たものを探す、もしくはデザインごと変更しなければいけないこともあった。瞬時にイメージしている花材を組み合わせることが大事だと分かった。

そして、プロになり作品を買ってもらうためには市場価格の何倍の値段で作品が売れるかによって利益が決まる。3倍4倍の値段にしても買いたいと思わせる技術が必要になってくる。値段以上のものを制作するには全ての花材や資材が意味を持ち成り立っている作品にまとめることだと教わった。そのような付加価値をつける技術を身につければ、思わず足を止めて見てしまうような作品を制作することができると思う。そんな人目を引くような作品を制作できるフローリストになりたい。

